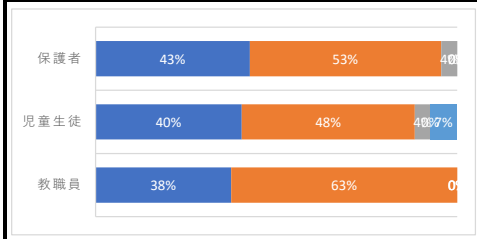
令和６年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

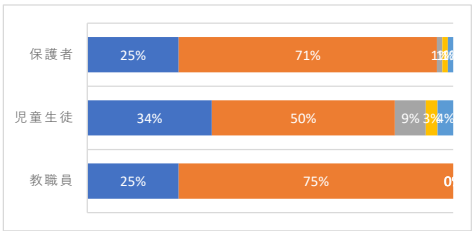
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

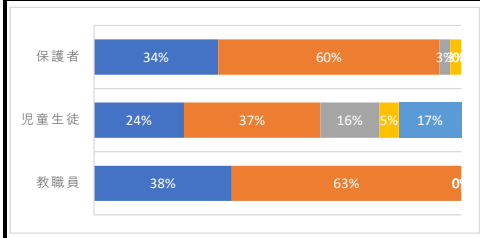
学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

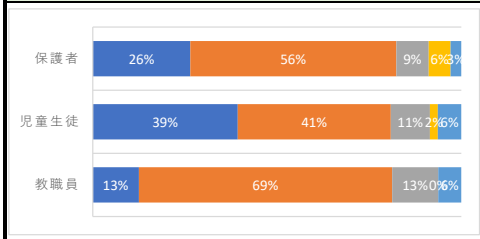
学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）



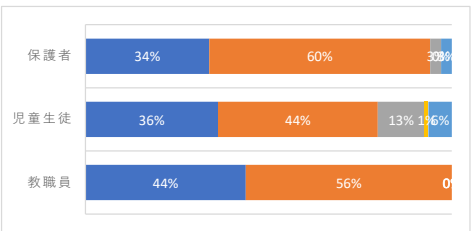
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



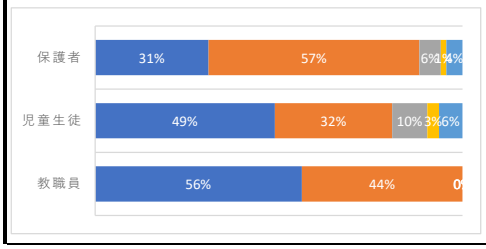
学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

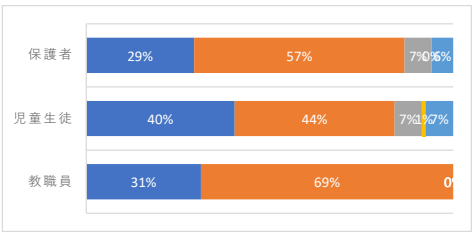
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



考察

どちらの項目においても保護者・教職員のどちらも肯定的な回答が多い。日々の道徳科での授業や心かがやけ月間での取組、教科体育の充実やきめ細かい保健指導によるものだと考えられる。児童においては自ら学びに向かう教育の推進で肯定的な回答に若干の落ち込みが見られる。このことから、授業を中心としたすべての教育活動の中で、児童に達成感や成就感を味わわせ、自己肯定感の高まりにつながる取組を発達段階に合わせて行うことが必要であると考える。そこで昨年度から校内研修で取り組んでいる授業改善を推進し、児童が学ぶ楽しさを実感できる授業づくりをめざしていきたい。

保護者からは肯定的な回答が90％と高い評価である。しかし、児童の回答では肯定的な評価が約60％と低く、取組に満足している児童が少ないことがわかる。３年生以上は総合的な学習、低学年は生活科のまち探検等で、地域の「ヒト・モノ・コト」を素材とした学習を系統的に行い、地域に素晴らしさを発見する学習に取り組んでいる。情報収集したことをアウトプットしたり、フィードバックしたりすることで取組への充実感を高めさせたい。また、児童会活動においては、毎年同じような取組でなく、各委員会が現状に応じて、児童を中心とした取組になるよう教職員が促していくことが必要である。

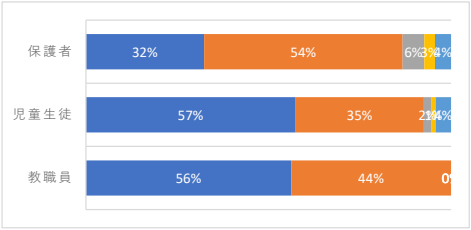
個別最適な学びについて、保護者、児童、教師の肯定的な回答は約80％とほぼ同じである。児童に対してはドリルパークを活用し、自分の課題に応じた学習を進めていくことを知らせ、必要感を持たせるようにする。また、保護者に対しては、学級懇談会や学級通信等で個別最適な学びをどのような場面でどのように保障しているのかを紹介していく。他者の意見を自らの学びに生かす取組では、保護者及び教職員と比較して、児童の肯定的な回答が低い結果となっている。対策として、学習の振り返りの中で他者からどのような学びがあったのかを常に記述できるようにすると自覚を促すことができると思われる。

特別支援教育をはじめとする支援体制及びインクルーシブ教育の推進については、90％弱の保護者が肯定的に捉えている。しかしながら、児童はどちらの項目においても若干低い結果が出ている。学校生活全般において、教師が児童間の言葉によるトラブルや配慮に欠けた言動を見逃さないこととともに、学級経営で支持的風土の醸成に努めていく必要がある。現在、全校をあげて朝自習の時間に実施しているソーシャルスキルトレーニングの内容をさらに充実させ、児童の相互理解に努めるようにしていきたい。また、道徳の授業や学級活動、帰りの会等の中で友達の良いところを伝え合う取組を充実させていきたい。

（3）最適な教育環境の整備

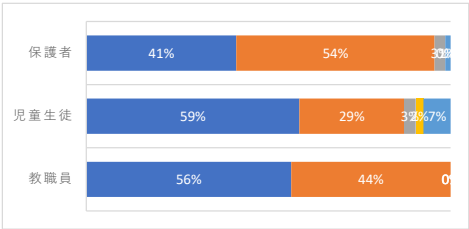
8 安全・安心な学校づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

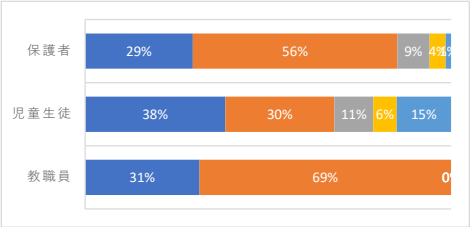


安全な学校環境づくりにおいては、保護者86%、児童92%とともに肯定的な回答であった。廊下歩行を月目標に設定したり、地域の防犯協会によるミマモリ隊による安心安全な学校づくりが浸透していることが考えられる。学校内外での取組を学校だよりや学級通信で継続して保護者へ情報発信をして、より一層の理解を図っていきたい。家庭や地域との連携においては、多くの保護者から肯定的な回答を得られた。授業の様子や児童の姿、がんばりを毎日ホームページで知らせることにより、保護者が子どもたちの姿を知ることができるという意見が見られた。今後も継続して児童の姿を通して連携を図っていきたい。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

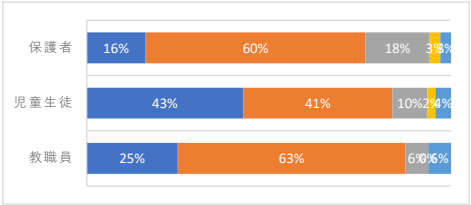


保護者においては、肯定的な意見が85%となっている。これは校則について、保護者に意見を求めたり、個別の保護者面談の場を設けたりしたことによるものと考えられる。しかし、児童においての肯定的な意見が70%割弱と低くなっている点については、学校保健委員会や子どもフォーラム等の意見を表明できる場が、高学年中心で行われたことにより、低・中学年にはあまり浸透していないことが考えられる。話し合ったことを全校児童に周知させる取組が必要である。また、児童が自分の思いを伝えるきっかけづくりのために、教育相談などの時間を設定する必要があると考える。

独自項目

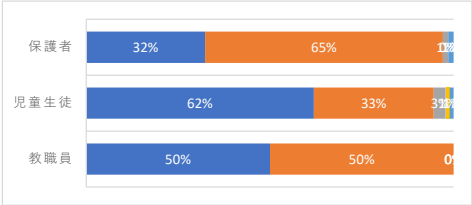
独自項目1

こどもは、進んで学習に取り組んでいると思いますか。（～たい、～したい）



独自項目2

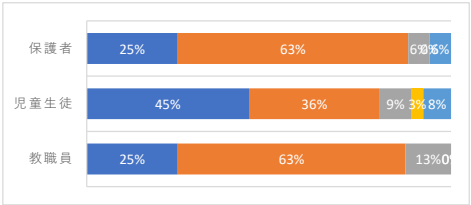
こどもは、友達と協力し合って、学校生活を送っていると思いますか。（合い）



学校目標である「たい（～したい）」の意欲的な学習においては、保護者の評価が低い結果となった。学級での取組を学級通信等で伝えることとともに、「けテぷれ」学習等を行い、家庭学習の充実に努めていきたい。「合い」の友だちと協力し合って学校生活を送ることは、肯定的な評価がほとんどである。同学年間での協働的な学びや活動だけでなく、たてわり班活動によるものの要因もあると推察される。今後も異学年と関わるような取組を継続させたい。

独自項目3

こどもは、相手の気持ちを考え、あたたかい言葉かけや行動をしていると思いますか。（愛）



学校目標に掲げている「考え行動する」という項目については、そう思うと回答した児童が45%と保護者や教職員と比較して高く評価している。各学期一度は月目標を「思いやりのある生活をしよう」と設定し、児童に意識させたことによるものと考えられる。さらに意識の向上を図るために児童会が主体となって「おもいやりのひまわり」「おもいやりのどんぐり」の取組のように友達のいいところ探しを行い、より多くの児童が相手を思いやり、あたたかな言動ができるように継続していきたい。

来年度の具体的な取組について

○児童が課題解決に意欲を持ち、協働で解決することに達成感を味わったり、学習を振り返ったりすることで新たな課題を発見するような授業改善に努める。
○学んだことをアウトプットするような自己表現の機会を多く設け、それを認めることで児童の自己肯定感を高める。
○児童が主体となって、相手に対する思いやりの言葉かけやあたたかな言動を称賛するような取組を行い、一人ひとりが自分事として捉えていくようにする。
○学級通信や学校ホームページを活用して、学習の様子や学校での取組を保護者に積極的に伝える。
○児童一人ひとりの学習ニーズに対するきめ細やかな指導及び保護者と連携による家庭学習の充実を図る。

小中学校関係者評価

○地域で子どもたちがしっかりと挨拶ができている。また、自転車の乗り方についても規則正しい乗り方ができている。学校での指導が行き届いている成果であると考えられる。
○保護者や地域がとても協力的である地域である。それを生かした学習活動が行われている。今後も学校・保護者・地域の連携を継続して、子どもたちの健やかな成長を育んでいってほしい。
○どの学年も明るく楽しい授業が展開されている。教師の授業をする姿がとても明るく、そのことが児童にもいい影響を与えていると感じる。